

人権救済申立書

大阪弁護士会 御中

申立年月日 平成14年10月25日

申立人 代表者 氏名

生年月日 昭和59年10月6日

住所

電話

別紙 他に申立する者 525名(高槻南高校生徒および今年度卒業生)

相手方 大阪府教育委員会

住所 大阪市中央区大手町2丁目府庁別館 大阪府教育委員会

電話 06(6941)0351

申立の趣旨

平成13年11月16日の大阪府教育委員会で決定された、大阪府立高槻南高等学校と、島上高等学校との統合は、これまで培われてきた、高槻南高等学校の行事やクラブ活動の伝統を断ち切るものであり、生徒の正常な学校生活を営む権利を著しく侵害しているものである。

平成13年8月30日の教育委員会で統合案の提出以降、高槻南高校に実際に足を運び、生徒の活動を見て、生徒への説明会を開催してほしいと、要望してきたが、実現せず、私たちへの正式な説明はなされなかった。これは私たちの「知る権利」「意見を表明する権利」を侵害するものである。

高槻南高校を、現在の校舎・現在の場所で、今後も存続してほしい。

添付書類

今年の軟式野球全国大会出場を果たした軟式野球部をはじめとして、高槻南高校のクラブ活動の実績は、広く社会に認知されているところです。しかし、「高槻南の伝統を引き継ぐ」と貴委員会が言われますが、このままでは、高槻南のクラブ活動の伝統を引き継ぐことは不可能であると、私たちは考えます。今回の決定ではクラブ活動はまったく考慮されていないと思います。

今回の決定がいかに私たちの権利を侵害しているか、いくつかのクラブに実情と意見を書いてもらいました。私たちの生(なま)の声に耳を傾けてください。

他に添付する資料

- ・教育委員会会議(昨年11月16日)議事録
- ・高南応援団による公開質問状とその回答

元生徒会長 3年 Mk

説明会は開かれていません。またクラブ活動への手当ては何もなされていません。

私たちの高槻南高校は、学校全体の雰囲気明るく、生徒も元気で文化祭・体育祭も生徒が中心となって運営され、毎年大きな盛り上がりを見せています。特にクラブ活動では大阪府下でも最高レベルの実績を誇っています。これらはこの高槻南高校で30年かけて、培われてきた伝統であると言えます。

昨年の教育委員会の「統合案」に対して、私たちは、それは統合ではなく、高槻南高校の廃校であると考え、生徒会を挙げて反対運動に取り組んできました。その中で、私たちは「高槻南高校に足を運び、実際に私たちの活動を見てください。そして生徒全体への説明会を開いてください。」と何度も要求してきましたが、実現することはありませんでした。

11月16日の教育委員会会議の場で「高槻南はクラブ活動が活発。クラブ活動についても、こうやって(高槻南のクラブ活動を)継続されるということを示し、不安材料を除くようにしてあげてほしい」と、ある委員から要望が出されましたが、今に至っても何の手当てもなされていません。クラブによっては、島上高校にクラブが無くて統合できず、廃部になったり、たとえ統合できたとしても、グラウンドの広さや施設の問題で今までの実績や伝統を受け継ぐことはおろか、発展させるなど到底無理だと判断しているクラブはたくさんあります。それに来年、新校に入学する生徒は、自分の生活している島上高校という場所で、島上高校の先輩と一緒に、文化祭・体育祭・クラブ活動をすることになるでしょう。

私たちはこの「統合」が高槻南の伝統を断ち切るものであり、私たちの正常な学校生活を営む権利を著しく侵害するものと思います。高槻南高校をこのまま、この場所で存続させてください。

軟式野球部 元マネージャー 3年 DS

大阪大会優勝の実績をもつ高槻南軟式野球部を廃部に追い込むのですか？

2001年秋季大阪大会準優勝、2002年春季大阪大会準優勝、春季近畿大会準優勝、夏季大阪大会優勝、全国大会出場ベスト8、高知国体出場、そして過去、大阪大会優勝4回、準優勝2回、全国大会出場1回とすばらしい実績のある高槻南軟式野球部。

私は、この高槻南軟式野球部で1年生の時からマネージャーをしてきました。全員野球をモットーにみんな一丸となって互いに助け合い、OBさんの力などたくさんの人の助け

によって高槻南軟式野球部は伝統を受け継ぎながら成長してきました。

私たちが厳しい練習にも耐え、すばらしい実績を残しても、今後どのように引き継いでいけるのでしょうか。2校合同でやればいいと無責任なことを言われても、現在島上高校にあるのは、硬式野球部であって、軟式野球部はないのです。それなのにどうやって「新校」で高槻南の軟式野球ができるのでしょうか。

高校に入ってずっと共に歩んできた何物にも変えられない大切なもの。そんな高槻南軟式野球部がなくなってしまうということが、私たちにとってどれほどつらいことか、わかりますか。三学年そろってやるという今まで当たり前だったことができない悔しさ。やっと自分で見つけた大切なものをどうして簡単に奪おうとするのですか。それが教育というものなのですか。私たちが得たたくさんの感動を後輩たちにも味あわせてあげたい。そのためには、高槻南の広いグラウンド、高槻南の顧問の先生、OBさんがいないとできないのです。

みんなの思い出がいっぱい詰まった高槻南高校。みんなが愛している高槻南高校。みんなが存続を望んでいます。私たちの心を無視しないでください。

高槻南高校の伝統をこの高槻南の校舎で受け継いでいかせてください。

バドミントン部 元部長 3年 UY

私たちは、クラブがなくなるのを待つしかないのですか？

私たち高槻南高校バドミントン部は、平成14年度インターハイ大阪府予選女子団体ベスト8、大阪高校総体女子団体ベスト16、個人戦女子ダブルス優勝、そして男子ダブルスは近畿大会出場と、公立高校ではトップクラスの実績をもっています。

私は高槻南高校でバドミントンをするために、この環境や高槻南の学校の雰囲気にあこがれて、高槻南高校への進学を決めました。高校とは初めて自分で決めた進路なのです。私たちの人生そのものなのです。高槻南高校がどれほど愛されているかご存知ですか。この広い運動場では、放課後どれほどの生徒が、汗を流し、涙を流してがんばっているか、ご存知ですか。

そしてこの先輩方の思い出のつまった高槻南すべての伝統をどうやって「新校」に伝えていくのでしょうか。私たちの人生を壊すのですか。一番に知らされるべき生徒に知らされずに、ただ机の上だけで決定を下した教育委員会。私たちが放課後にどんな活動をしているか、一度も見ることなく。私たちがどれほど傷ついているか、心の痛みがわかりますか。

クラブについて、教育委員会は「2校合同でやればいい」と言われましたが、島上高校

にバドミントン部がないことをご存知なのでしょうか。来年「新校」に入学する生徒にとって、「先輩」とは島上高校の生徒であって高槻南の生徒ではないのです。何も無いところに高槻南バドミントン部の伝統を受け継ぐことはどうしてできるのでしょうか。

また、このままいくと、高槻南の先生の人数がどんどん減少していくはずですが、その中で熱心に指導されてきた顧問の先生がいやでも転勤しなければならないという事態が予想されます。

私たちはこのまま高槻南のバドミントン部がなくなるのを待つしかないのでしょうか。どうしたら、この輝かしい伝統のある高槻南バドミントン部を残せるのでしょうか。だれもその答えを教えてくださいません。私たちの心に開いた穴をどうやってふさぐつもりですか。私たちにクラブを続ける権利はないのですか。

高槻南高校をこのまま、この場所で存続させてください。

ソフトテニス部 元副部長 3年 KM

高槻南のコートでないと伝統は引き継げません。

私たち高槻南高校ソフトテニス部は、平成14年度近畿大会兼インターハイ予選大阪大会団体戦において数々の私立強豪校に引けを取ることなく勝ち進み、そして第五位に入賞し、我が部では4年ぶりとなる近畿大会出場を果たしました。近畿大会では一回戦で和歌山県のベスト4に2 - 1で勝ち、2回戦で滋賀の一位に負けてしまいましたが、公立高校ではトップクラスの実績と実力を持っています。

私たちは技術だけではなく、素晴らしい顧問や監督の下で他校に見られても恥ずかしくないような礼儀作法を学び、気を付けています。それに、私たちは定期的にコートやコート周辺の掃除をしています。夏の間は練習をしやすいように、暑さで乾燥した土にみんなが3面共に水を撒きます。冬の間は春が来るまでにコートの質を下げないように、毎日毎日練習が終わってから30分近くかけて、2台のローラーを使いコート整備をしています。それでも日々、部員一人一人がコートに気を配っているので、いつもきれいな状態になっており、年間を通して試合会場に選ばれることも多いのです。そして、そのような日頃の成果が他府県の多くの先生方の耳に入り、多くの研修大会にも呼んで頂いています。

みなさんは、島上高校のコートを見たことがありますか？草は伸びきり、地面から石が出ていることもあります。最近では部員が3名になったそうで、練習さえも疎かになっているようです。私が現役だった頃に島上高校に練習に行かせてもらった時、あまりにもそのコートの整備の悪さに見かねて、他校のコートであるのにもかかわらず私たち高槻南の部員で草抜きをしました。また私たち高槻南高校ソフトテニス部には、茶髪・化粧・ピア

スをしている選手は誰一人としていません。コートに立つ時にソフトテニス以外のものや精神を持ち込まないようにしているためです。コートという場はとても神聖であり、部員全員がソフトテニスを本当に愛しているからこそ、その信念を貫き通すことができるのです。私たちは高槻南の部員と島上の部員との間に根本的な「違い」があることを感じてきました。ソフトテニスに対する「意気込み」や「取り組み方」に於いて、天と地との差があるように思えます。そのような全く異なる2校のクラブをどのように合体できるのでしょうか、どのように今までの高槻南高校ソフトテニス部の輝かしい実績や伝統を受け継げようか、というのでしょうか。

しかし、私たちは顧問と監督と話し合った結果、新校との合同チームを受け入れることにしました。その決定の最大の理由は、茨木西中学校に通う、ある一人の素晴らしい中学3年生の選手の才能を、今ここで消す訳にはいかなかったからです。その子は、中学1年生の時から高槻南の練習に何度も参加していました。その頃から、「高槻南高校でテニスがかしたい！高槻南の高校生みたいにならなりたい！」と思い始め、高槻南高校に進学することを決心していました。しかし、去年の統廃合の決定以降、とてもショックを受け、ソフトテニスが続けないと言い出しました。私たちはその子の為に信頼できる高校を何校か紹介しましたが、「高槻南高校がいい・・・。」と言われて困っていました。合同チームを受け入れるかどうかという話し合いの時に、はじめは部員のほとんどが反対でした。しかし、私たち高槻南高校ソフトテニス部はその子の才能を消す訳にはいかない的一致団結し、泣く泣く新校との合同チームを受け入れました。せめて、高槻南高校の校舎やコートが残っていれば、今の私達はこんなに辛い妥協をしなくてすんだのです。私たちはその子を高槻南のコートで育てたいですし、共に成長していきたいのです。だからせめて、私達のOG・OBの方々から今の代まで、毎日毎日整備し、築き上げてきたコートでソフトテニスが続けさせて下さい。新校に行けば、コート整備だけで一年が終わってしまうぐらいの遅れをとります。素晴らしいコートというものは、一週間やそこらでは決してできません。今の高槻南のコートなら、新チームが来たその日から共に練習を始められるのです。

新校の選手と共に練習することに対しては、私たち高槻南高校ソフトテニス部はやむなく了解しました。でも、あの島上のコートではできません。高槻南のこのコートなら、必ずすぐに部員も増えるでしょうし、成績だって衰えることはありません。「高槻南の伝統を新校に引き継いで欲しい」と府教委の方々が言っていたその言葉に100%答えることができます。

だからお願いします。ソフトテニス部だけでなく、他のクラブもみんな頑張っています。高槻南高校をなくさないで下さい。ソフトテニス部からのお願いとしては、毎日毎日整備

し、愛し、多くの実績を共に築き上げてきたこのコートを私たちから取り上げないで下さい。

高槻南高校を、そしてこの高槻南のコートを存続させて下さい。

吹奏楽部 部長 2年 MY

私たちの定期演奏会を奪わないでください。

私は高槻南高校の吹奏楽部の部長をしています。現在、わがクラブはOBさんの協力なしにはまともな演奏ができません。多人数でないと活動ができないことがわかっているから、今年入学した1年生が入部してくれなかったからです。私たちも「入部してほしい」と自信をもって言うことができませんでした。高校で吹奏楽を続けたいと思って高槻南に入学した私たち2年生は、他の高校2年生と比べて平等に扱われていないと感じています。

私たちは、新校に吹奏楽部の伝統を伝えていけるのなら、伝えていきたいと思っています。しかし、現実には無理だと考えざるをえません。練習方法や演奏会など、同じ場所と一緒に先輩と後輩が練習して受け継いでいくものが伝統です。また、決定的な問題としては、島上高校には今、吹奏楽部がなく、新校に吹奏楽部を作ることはほとんど不可能であるということです。そんな状態では到底伝統など受け継いでいけるはずもありません。

また、高槻南高校吹奏楽部が3月末に毎年行っている定期演奏会(デミグラスコンサート)は、2年生を中心に趣向を凝らして、ステージを作り上げていく伝統の行事であり、OBさんたちが高槻南高校に『里帰り』できる保証なのです。言わば、私たち現役生と、OBさんの共通の『宝物』なのです。それは高槻南で、現役生とOBとが一緒に作り上げるものであり、高槻南がなくなってしまうと途絶えてしまいます。OBさんたちの帰る郷里とも言えるものがなくなってしまうのです。これはどうやっても解決できないことです。私たちが卒業しても帰る場所がないということはとてもさびしいことです。新しい高校は新しい高校であって、私たちの高校ではないのです。

卒業しても帰れる場所をいつまでも残してほしいと思います。

陸上競技部 平成14年卒業 OT

私たちの帰る故郷を奪わないでください。

私は高校在学中、3年間陸上部に所属し、この春に高槻南高校を卒業して、現在は体育大学に通学しております。

高槻南高校が誇る広大なグラウンド・・・その真ん中で毎日汗を流して走っているのが

高槻南高校陸上部です。「初動負荷トレーニング」という、今までとは違う新しい発想のトレーニング法をどの学校よりも早く取り入れ、部員一人一人が『動き』に対する意識をしっかりとって練習しています。また、このトレーニングの良さを一人でも多くの人に理解してもらおうと、他のクラブや高槻第三中学校陸上部、芥川高校サッカー部のみなさんに私たち部員が直接指導したこともあります。また顧問の先生に対する部員の信頼は非常に厚く、練習の合間に先生と部員が冗談を言って笑い合う、そんなアットホームな雰囲気も代々受け継がれてきた高槻南高校陸上部の特徴の一つです。

私が特にお世話になっていた顧問の先生は、高槻南高校の卒業生で元陸上部です。私の先輩にあたります。私は1年生の頃からクラブ中いつも先生にくっついていました。先生は厳しいときもあるけど優しく、たくさん話をしてくれて・・・私は先生を本当のお母さんのように慕っていました。

高槻南高校の統廃合案が出された翌日、グラウンドで同じ陸上部の子と落ち込んでいたら、先生が来てなぐさめてくれました。だけど、「あきらめずに頑張ろう!」と言っている先生もやっぱりいつものような元気がなくて、『本当は先生も泣きたいのでは・・・』と思うと、私は余計に悔しくて涙が止まりませんでした。

高槻南高校陸上部には、先生や私を含めたくさんの人達の大事な思い出がつまっています。私たちは伝統というバトンを30年間絶えることなく繋いできたのです。それをまた新校へ繋げというのなら、それは不可能なことです。しかも島上高校では陸上部は活動していないのです。高槻南の名前があって、広いグラウンドがあって、先輩方の伝統があってこそ高槻南高校陸上部です。一つも欠けたら全く意味がありません。

また、私には『教育実習は母校である高槻南高校に行きたい』という夢がありました。私は大学で体育学を専攻しているので、授業では後輩達に体育を教え、放課後はクラブに参加して、そして体育教官室の椅子に座ることに強い憧れがありました。・・・しかしこの夢も潰れてしまうかもしれません。私が4年生になるその年に、この高槻南にはだれもいなくなるのです。私はどうすればいいのでしょうか。

私は統廃合が目前に迫った今でもあきらめられません。納得のいかない事ばかりで、怒りと悔しさが爆弾みたいになって今にも**大爆発**しそうです。

どうかどうか、高槻南高校をこのまま存続させてください！！私たちの帰る場所を奪わないでください！！！！お願いします！！